

このプログラムは、Palm 本体からダイアル トーン (DTMF) を発生する電話ドライバです。  
「アドレス」など電話をかける機能のあるアプリケーションで、トーン ダイアル方式の電話をかけることができます。

## 配布ファイル一覧

ToneDialer.prc ..... トーン ダイアラー アプリケーション リソース  
ToneDialer\_jpJP.prc ... 日本語オーバーレイ リソース  
ToneDialer.pdf ..... プログラムの使用方法 PDF 形式 (このファイル)  
Readme.txt ..... この作品についての説明  
License.txt ..... ご利用条件

## 動作環境

このプログラムは PalmOne の LifeDrive の Palm OS 5.4.8 上で動作を確認しています。ただし、日本語の表示については ACCESS で提供されている開発ツールの Palm OS Garnet Simulator で確認しています。

他のバージョンの OS 上での動作は未確認です。

PCM サウンド (Sampled Sound) 再生の機能を使用しますので、Palm OS 5.0 以上が必要です。また、PCM 再生の機能がある機種が必要です。

以降の説明では、解りやすいようシミュレータの日本語表示画面を示します。英語表示の場合も操作方法は同じです。  
この文書の最後に LifeDrive の表示画面も載せておきます。

## インストール

- (1) HotSync などを用いて ToneDialer.prc を Palm に転送します。日本語 OS 上で日本語表示で使用する場合は、日本語オーバーレイ ToneDialer\_jpJP.prc も一緒に転送します。
- (2) ソフト リセットを行います。
- (3) [環境設定] の [電話] 画面の [接続] で “Tone Dialer” が選択されていることを確認します。



- (4) 「詳細設定」の項の説明に従って、詳細項目を設定します。

## アンインストール

Palm の標準のアプリケーション削除方法に従って“ToneDialer”を削除してください。

## 詳細設定

詳細設定画面で以下の項目を設定できます。

### [ディレイ]

ダイヤルを開始するまでのディレイを指定します。アプリケーションがダイヤルの API(TelSpcCallNumber)を呼び出してから、ここで指定した秒数だけ時間が経過した後にダイヤルを開始します。

アプリケーションで電話をかける操作をした後、Palm を持ち替えて受話器に当てるというような使い方をする場合に使用します。

ディレイが不要な場合はゼロを指定してください。

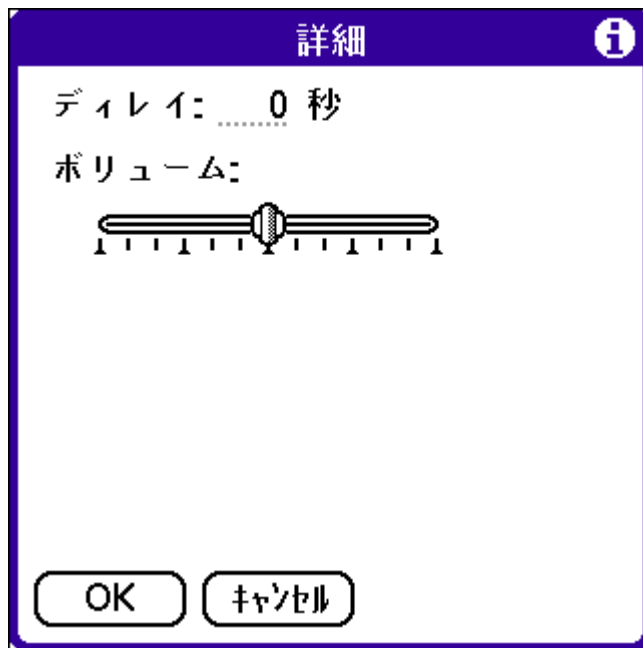
### [ボリューム]

ダイヤル トーンのボリュームを調整します。

### [詳細設定画面の開き方]

[環境設定]の[電話]画面で[詳細]をタップします。





## 使用方法

このドライバは Telephony Manager の TelSpcCallNumber API に対して Palm 本体からダイヤル トーンを発生します。

Palm のスピーカーを電話の受話器の送話口に当て、アプリケーションで電話をかける操作を行います。

TelSpcCallNumber を使って電話をかけるアプリケーションの例として「アドレス」(LifeDrive では“Contacts”)があります。たとえばアドレスの[ダイヤル](LifeDrive では[Connect])の機能で電話をかけることができます。

(ダイヤル トーンで電話をかけることができるのはトーン ダイヤル回線の電話のみです。パルス ダイヤル回線の電話では使用できません。)

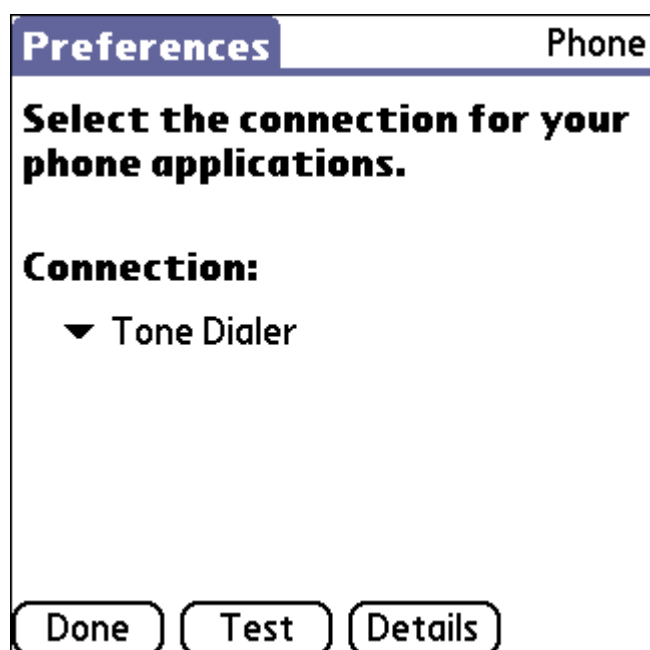
TelSpcCallNumber の仕様では、電話番号として指定できる文字は‘+’、‘0’～‘9’、‘#’、‘\*’、‘.’となっていますが、このドライバでは‘A’～‘D’のトーンも出力できます。

‘.’(ポーズ)は約 2 秒間隔を置きます。

## 英語表示画面

英語表示画面の例として、LifeDrive での画面を示します。

### [環境設定]の[電話]画面

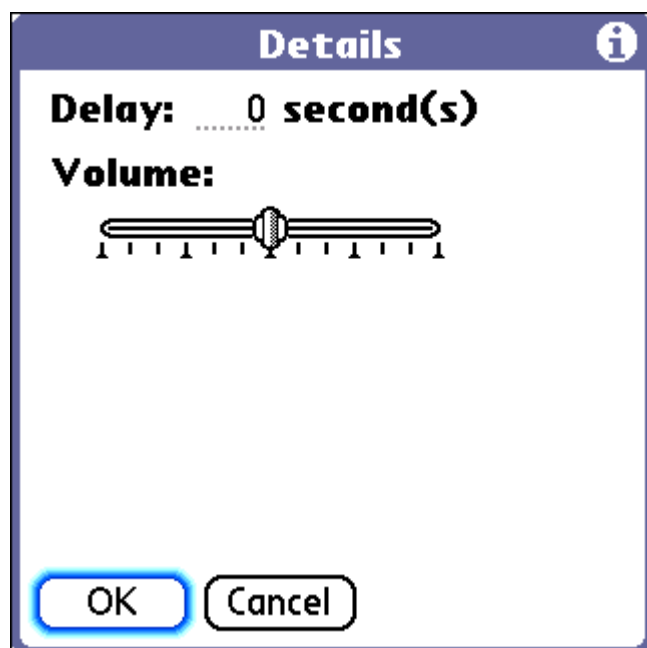


名称の対応

[接続] → [Connection]

[詳細] → [Details]

### 詳細設定画面



名称の対応

[ディレイ] → [Delay]

[ボリューム] → [Volume]